

令和7年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

1. 議題

- (1) 教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）
- (2) 次期香川県教育基本計画について

2. 日程・出席者

(敬称略)

地域 日程	地域の教育関係者等	
	氏名	役職
仲善・三観 7月17日(木) 13:00～14:30	山本 明男	元小学校長
	横山 和也	善通寺市PTA連合会会長
	高城 克如	観音寺市PTA連絡協議会相談役
	小林 千芳	三豊市教育委員会事務事業点検・評価員
	川崎 真喜雄	榎井小学校PTA副会長
	橋塚 智教	まんのう町少年育成センター所長
	佐野 香織	琴南こども園PTA会長
丸亀・坂綾 7月18日(金) 13:00～14:45	進 和彦	丸亀市コミュニティ協議会連合会副会長
	金澤 泰宏	丸亀市PTA連絡協議会会長
	岡田 真	坂出市PTA連絡協議会会長
	別所 順子	宇多津中学校PTA会長
	山口 義正	綾川町PTA連絡協議会会長
高松・東讃・小豆 7月23日(水) 13:00～14:55	辻 佳宏	高松市PTA連絡協議会会長
	松本 学武	高松市子ども会育成連絡協議会会長
	井川 雄喜	さぬき市PTA連絡協議会会長
	吉田 和恵	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員会副委員長
	栗原 敏旨	東かがわ市PTA連絡協議会会長
	田中 沙織	東かがわ市PTA連絡協議会母親代表協議会会長
	柳生 敏宏	土庄小学校PTA会長
	河合 邦王	土庄小学校PTA副会長
	大林 幸絵	小豆島中学校PTA会長
	桑村 泰子	三木町教育委員会事務点検・評価委員
	石川 香与	三木町PTA協議会会長
	香西 謙二	直島小学校校長
	山本 里美	直島小学校PTA副会長

3. 意見の概要

教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）

- 確かな学力の育成の分析で、「令和6年度調査を実施した当時の小学5年生はコロナ禍の臨時休校等による制限を小学校1年生の時に受けている」とあるが、それは他の学年も同じだと思うので、コロナの影響が強く出ている分析だと思った。
- 暴力行為の1,000人当たりの発生件数が8.5件とあるが、それが多いのか少ないのか判断できない。いじめの認知件数は1,000人当たり47.2件で、全国平均57.9件を下回っているとあるので、暴力行為も全国の数字があった方が分かりやすいと思う。
- 1,000人当たりのいじめの認知件数は全国より10件ほど少ないが、「認知の感度を高めていく必要がある」と書いていて、プラスの評価をすればいいのと思うので、「引き続き、支援の充実を図る」という書きぶりに変えてもいいと思う。
- 「さぬきっ子安全安心ネット指導員」として県内を回っており、保護者と子どもと一緒にやるのが大事だと思っていて、授業参観などで親子でできるワークショップを計画している。
- 「授業内容がよく分かるか」の指標では、授業が分からない子どもの実態が書かれている。小・中学校の先生の意見で一番多いのは、授業をした後、最後にまとめる時間がないということ。勉強したことを最後にきちんとまとめていないと、子どもは身につかない。
- 物価が上がって、各地でできるだけ給食費を上げない取組みをしている。食育指導と同時に献立や残菜について意識して給食を見ていかなければいけないと思う。
- 地域の教育力の向上とあるが、一部の地域では公民館などに先生が来て教えてくれている。それをするなら全部の公民館でして欲しいと思うが先生が足りない。
- 教育委員会は保護者からすれば重たい存在で、もっとフレンドリーに、もっと分かりやすく広報をしてほしい。もっと子どもたちの場に出てきて、話しやすい環境をつくれないうか。
- 家庭での体験が減っていて、外に遊びに行くにしても家庭だけでは難しくなっているところがある。子どもの成長を実感したり、成長を促すために、親子で一緒に遊ぶ機会など、いろいろな場を企画していただけたらと思っている。
- 日常にスマホ、タブレットがあって、姿勢が悪い、文字も筆圧がない、斜視になるといった健康被害が問題になってきていると思う。
- 郷土に誇りを持つ教育の推進で、施設と隣接する公園の一体的活用のため、近隣の高校に相談して、生徒とともにお祭りを開催することになった。
- コミュニティ、学校のことがよく分かる人が地域コーディネーターを務めていて、学校とのやりとりが効率的にできるようになったので喜んでいる。
- 保護者はインターネットやSNSでの犯罪に関心があると分かったので、講師を呼んで、親として子どもを見守る学びの機会を設けた。子どもたちにダメというだけでなく、知識を深めるための授業を行いながら、いじめをどう防いでいくかが問題だと感じている。
- 中学校1年生の自転車事故がとても多いと感じる。学校で指導もしているが、子どもたちは自分たちに責任がないと思っていて、保護者もあまり認識がない。義務としてあるということ、子どもに教育現場で周知していただくとともに、保護者にも周知を徹底することが必要だと思う。
- 情報化社会で、学校で知ること、テレビで知ることよりも、SNSで知ることが一番になってきており、誤った情報が子どもたちの中に先に認識されていく怖さがある。

- 公民館の運営協議会は、自治会からお金が出て成り立っているが、高齢化もあり、自治会を退会する方もいて、非常に悩んでいる。各学校に学校運営協議会を作って、どのような形で運営していくか必死に考えている状況である。
- 評価・課題に「児童生徒の学習意欲を高めていく必要がある」とあり、子どもの主体性を育むためのアプローチを今後もどんどんやっていただきたい。
- 地域の力もだんだん弱まっており、見守り活動をしている方も高齢化でなり手不足である。日本は欧米に比べて子どもの頃からボランティア活動をして、地域貢献をするのが少ないようなので、子どもの頃からボランティア活動をどんどんしていけば、大人になって地域貢献しようという機運が高まると思う。
- 私の子どもは本が好きで、学校の図書館を利用しているが、新刊や人気のある本はずっと借りられていて読めない。どれぐらいの割合で新刊など本が入ってきているのか教えてほしい。
- 校種間連携として、中高一貫校の良さや今後中高一貫校が増える予定があれば教えて欲しい。
- 地域の小学校が3クラスだったのが、これから2クラスに固定される。今後先生1人当たりの子どもの数が増えていく教育体制になるのか教えていただきたい。
- 働き方改革の推進で、教員業務支援員という方がいるのを知らなかった。支援員の配置や部活の地域移行も含めて、学校の先生がもう少し楽になったらいいと思う。
- ネイティブが話す英語と英語教育の英語に格差がある。話せる英語が身につくようにネイティブに近く、インターナショナルな活動ができる英語教育に目を向けていただきたい。
- 子どもが勝手に課金したり、闇バイトや親のクレジットカードを勝手に使うケースがあるので、中学校からお金がどういうものか基本的なことでいいので金融教育をしていただきたい。
- 幼児教育で食習慣と基本的生活習慣をしっかり確立してほしいと思う。
- 1990年にフィンランドはデジタルを導入し、ブルーライトで睡眠が阻害されるなどの課題があって、今紙に戻そうという動きがある。その課題を無視せず、それぞれの良い所を取り入れながら、子どもたちの勉強内容や目的、年齢や発達内容に応じた取組みをして学習環境を整えていただきたいと思う。
- 国がインクルーシブ教育や個別最適な学びを推奨する中で、1学級35名という教育現場では、個別最適な学びまで手が至らない学校がたくさんあると思う。35名という基準を引き下げたり、教員や支援員の数を増やすといいと思う。
- 今年からほんのもり号が運航されており、島の小学校をほんのもり号で繋ぐ取組みをしようと考えている。子どもの豊かな感性を育み、郷土に誇りを持つ大事な取組みだが、運航が5年間なので、長期間で子どもたちを育てられるような配慮をお願いしたい。
- 働き方改革の指標で年間の年次休暇の取得状況があり、評価・課題に「支援員を入れているところは時間外が減っている」と書いてあった。先生の時間外在校等時間を減らす取組みをすれば、先生一人一人のパフォーマンスも上がっていくと思う。
- 子どもたちが図書館に返ってくる本を元に戻したり、掃除したりする中で図書館を知ることができる機会があればいいと思う。

次期香川県教育基本計画について

- 親が変わらないと、子どもも変わっていかない。いじめも大人のやり方を見て子どもは学んでいくと思うので、良いことも悪いことも、親が子どもと一緒に変わっていったらいいと思う。

- わいせつや盗撮など子どもたちに被害が出る事件が全国で起きており、もしかしたら香川県でも思っている。採用試験でみるのは難しいと思うが、県民は心配していると思う。
- 現場にいたときは中学校の理科の教員をしていて、とにかく時間がほしかった。部活動が終わって毎日9時まで、次の授業に向けて理科室で予備実験をしていた。予備実験をしていないと注意することも抜けるので、ニュースで授業中の事故を聞くと予備実験ができなかったのではと思っている。働き方改革を進めていただき、教員に時間をあげて欲しい。
- D評価が16項目あり、こればかり見ていたら暗くなって先が見えない。次期計画では指標をまとめて、香川の教育の動きが全体として分かるようにして欲しい。
- 先生が言葉を選んで物を言うのは立場が逆だと思う。盗撮もそうだが、先生方のストレスからきているので、もっとゆとりや時間を作ることを考えて欲しい。
- 先生は授業だけでなく生活の場面でも丁寧に子どもたちに関わっていると感じる。また、保護者や子どもにしても心配なことが多く、時間に追われていると思うので、働き方についてもできるところは効率化をしていただきたい。
- 計画は中長期の取組みだが、PTA役員は毎年変わるので、次期計画では引き継げるように運用マニュアルを作っていただきたい。
- 子どもが小学校に入学したときから卒業する今年までに全校児童が100人減った。教育方針は一緒だと思うが、児童が多い学校、少ない学校があるので、地域に合わせたやり方を尊重してもらいたい。
- 総合的な学習の時間や道徳の時間があるが、ふるさとへの理解がどこまで教育の中で表せるのかということになってくる。夏のラジオ体操や地域のゴミ拾い活動など、先生が子どもたちに呼びかけるとしっかり伝わるが、地域からお願いすると伝わらない。郷土香川を愛する子どもが育つと思うので、先生からしっかり発信して欲しい。
- 廃校は避難所として使われると思うが、その利活用について地元でも協議しているところ。
- 自発性はボランティアにも繋がってくると思い、子どもたちに地域の活動を強制してない。そのかわり、例えば社会福祉協議会に来ていただき、これをすれば町がこうなる、みんなはどうなるかと子どもに想像させる機会を持っている。次期計画には「自発」という言葉を入れていただきたい。
- 児童生徒のウェルビーイング、それを支える教師のウェルビーイング、それぞれが高まる教育環境づくりを県としてどう進めるか項目があってもいいと思う。
- 子どもからすると「自分には、よいところがあると思いますか」という質問は答えにくいので、「人の良いところを見つけられますか」などと言い変えれば、より深い回答が返ってくると思う。
- いじめや暴力行為の件数、不登校の多さに驚き、教育委員会や先生だけでは難しい部分もあるので、行政や社協が関わっていかないといけないと思う。
- 先生の働き方についても満足度を調べてみたらいいと思う。
- 子どもが身長と体重だけで、肥満と指摘されるが、筋肉量など他の面でも見てほしい。
- 学校運営協議会は地域教育のベースとなる重要拠点だと思う。学校がより良くなる話合い、行動に移せるような話ができる場になればいいと思う。